

平成28年8月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>

熊川宿

鯖街道

花嫁道中華やぐ

～熊川ゆかりの姫たち～



Photo: 国際シンポジウム 熊川ゆかりのお姫様 花嫁道中(平成28年3月12日)

国際シンポジウム

「振り返れば未来の道発祥街道」

主催・福井県若狭町

熊川宿熊川宿生き生きプロジェクト実行委員会

3月12日、戦国時代の若狭街道を生きた熊川宿に由縁の深い姫たち「豊吉・ガラシャ・お市」

お初」になぞらえた4人のお姫様の

花嫁道中が行われました。

花嫁を演じたのは、ブライドオブ

ジャパン2015入賞者の4名で、

熊川宿の歴史的な町並みに、花嫁たちの笑顔が輝いていました。熊川地区の子どもたちも華やかに着飾って行列に花を添えました。一行は、吉

岡区長が奏でる鉦を先

頭に、食フェアで賑わ

う会場を一回りして、

はなももの小枝を配り

ながらまちなかを歩き、

松木神社へ向かいました。

松木神社では神事

が行われ、イベント第

三部の「熊川宣言」後

の「お茶会」にも参列

されました。

◆ ◆ ◆

国際シンポジウムは、

3月11日から、パレア

若狭を会場に始まり、

第一部の基調講演では、

松平定知さんから、当

地の信長・秀吉の天下

獲りの関わりについて

お話しいただきました。

第二部では、藤井絢

子さんから、琵琶湖の

発酵食品を中心とした

食文化の継承について

レクチャーの後、政所利子さんのコーデ

イネートで「御食国(ミケクニ)暮らし、歴史。振り返

れば未来の道を語る」をテーマにパネル

ディスカッションを実施。イタリアから

お見えいただいたチエターラ市長、マッ

シモ氏も加わり、イタリアでの伝統的な

発酵食品の生産と地域づくりのストーリー

ーなど興味深く楽しいお話を聞きました。

12日には、午前中「外国人料理教室」が、

午後から松木神社義民館を会場に「熊川

宣言」と「お茶会」が開かれました。

熊川宣言では、政所利子さんのコーデ

イネートで、富山県南砺市長、千葉県神

崎町教育長も加わり、有意義なパネルデ

ィスカッションになりました。

お茶会では、老松のご主人太田達さん

が開発した熊川葛を使った水織粽と抹茶

が振る舞われました。楽しいトークで盛

り上がり、普段は味わえない味と雰囲気

に皆さん満足気でした。

◆ ◆ ◆

また12日と13日の2日間、上ノ町の会

場で「うまいもん食フェア」が開催され、

熊川宿関係では、1日目、おもてなしの会

から葛ようかんが、2日目、女性の会から

長操鍋が販売され、見事完了しました。

目次

花嫁道中華やぐ	1
寄稿文・総集會	2
空き家活用の取組み	3・4
研修報告・話題	5
活動報告・事業計画・お知らせ	6

今が節目の時

平成28年度熊川区長 岡本宏一

今年の冬、まちづくり委員会の視察研修で十数名の区民の方と福岡県と愛媛県の重伝建地区に行かせてもらいました。実際に現地へ行き、地元の方から直接話を聞きながら歩いて廻るといろんな面が見え、まちづくりに対する思いも聞け、今一度熊川の姿を振り返り思いを新たに作る有意義な機会となりました。

どちらの地区も熊川宿と比べると二歩も三歩も進んでおり、特に観光面においては10年、20年先の姿のように感じました。しかし、よくよく話を聞いてみると、まちづくりが進むにつれて様々な課題があるようで、このことは熊川においても当てはまる事であり、そして熊川は今が節目の時であると思いつながりを感じました。

重伝建に選定されて20年、昨年は日本遺産第一号に認定され、今年には熊川葛が林業遺産にも認定されました。また、国や県からは地域活性化事業に對しての予算も積極的に交付されていろんな事業やイベントが展開され



ています。こうした中、近年熊川には見える部分と見えない部分のいろんな問題

が出現しています。その中の一つに人口減少の問題があり、このことが全ての問題の引き金になっているような気がします。現在、区の戸数は約90軒となり、その大半が高齢化世帯で子どもの数も減少傾向にあります。それに伴い空き家も増え始め、保存も含めて管理問題も出始めています。

現在の熊川は、区の事業や行事に加えて熊川宿として取り組まなければならぬ事業も近年増えてきています。実働年令の世代が少ない熊川にとっては、どうしても区民の負担が大きくなってきます。今の熊川の現状に目を向け、問題を問題としてしっかりと受け止めて区民が思いを共有することが大切であると思います。そして周りの環境や時代の流れに合わせて、守るべきものは守る、変

えるべきものは変えていくという思いで、すぐに解決とはいきませんが皆で知恵を出し合い前向きに一つ一つ前進していきたいと思えます。

これまでの先人のご尽力と努力のお陰でまちづ

くりが進められ、ここまで熊川宿が多方面から注目されるまでになりました。区民としてこのことに自信と誇りを持つことで大きな郷土愛となり今後の活動の原動力に

熊川宿まちづくり総集會

平成28年2月21日(日) 熊川児童館

熊川区民と行政関係の皆さんにお集まりいただき開催しました。森下若狭町長より鯖街道熊川宿生き生きプロジェクトをはじめ、熊川宿を取り巻く環境についてお話しいただきました。

次に、昨年取り組んだ熊川いっぶく時代村とおもてなし清掃活動について、西村毅氏から報告があり、協力お礼のお楽しみ抽選会が行われました。

講演では、空き家再生の先進地である福岡県八女福島伝建地区から、NPO法人八女町家再生応援団副代表の北島力氏にご来訪いただき、「町並み



保存の持続的な継承に大切なものは何か」と題してご講演。空き家再生の取組みについて

熊川区民と行政関係の皆さんにお集まりいただき開催しました。森下若狭町長より鯖街道熊川宿生き生きプロジェクトをはじめ、熊川宿を取り巻く環境についてお話しいただきました。

「行政との連携が欠かせない。移住者を積極的に受け入れて活躍する場を作ることが大切」と語られ、熊川宿の町並みのこれからのについて考える気運を高めました。続いて宮本会長から今年の主なまちづくり活動について説明がありました。その中で、11月26日、27日に開催する「重伝建選定20周年記念事業」と「第4回北信越町並みゼミ熊川宿大会」について協力をお願いしました。次に、まちづくり委員会会長として20年の長きにわたりご尽力された河合健一氏に、熊川区とまちづくり委員会から感謝状が贈られました。

総集會の後は懇親会が開かれ、オードブル、鯖寿司、コンニャクのから揚げ等を囲んで大いに盛り上がりました。

北島氏は旧逸見勘兵衛家に宿泊され、翌日熊川宿内を視察、色々とお話をお聞きいただきました。



昔ながらの風情ある町家で 新しい暮らし始めませんか!?

◇空き家情報は熊川宿ホームページでご案内しています。

熊川宿 検索 <http://kumagawa-juku.com>



熊川宿での生活をお考えの方のためのガイドブックで、平成24年度に立命館大学政策科学部高村教授や(社)近畿建設協会のご協力を得て製作したものです。



熊川宿地域の資源活用計画策定プロジェクトとして、空き地・空き家対策に取り組んでいます。

熊川宿地域資源 活用計画策定プロジェクト 空き家活用の取組み

平成27年10月に若狭町が策定した「若狭町総合戦略」に基づく事業として、国の地方創生先行型交付金を受け、平成28年1月から販わりと交流を創出する「熊川宿熊川宿生き活きプロジェクト」を進めています。その一環で、「熊川宿地域資源活用計画策定プロジェクト」として空き地・空き家対策に取り組んでいます。

るリピーターさんからの要望もあり、改訂版を増刊しました。

◆先進地研修

熊川宿では、少子高齢化の影響に加え、伝統的な建造物群を保存する必要性から、二世帯・三世帯が居住しにくい特性もあり、空き家や留守宅が増加しています。

この熊川宿を価値ある財産として維持していくためには、空き家対策が喫緊の課題となっています。今回、空き家再生の強化を図り、具体的な取組みを行うおうと空き家再生の先進地を研修しました。
(下記4ページに詳細記事)

◆空き家所有者への訪問など

先進地研修と並行して、熊川宿に空き家を所有されている方を訪問し、ご自宅を財産として活用する方法など色々とお話をさせていただきました。

また、所有者のご承諾を得て、長年放置されている空き家周りの草刈り等を行いました。



空き家周りの清掃活動

◆空き家情報公開

熊川宿内空き家の売買または賃貸可能な物件の情報提供を行っています。(詳細は熊川宿HP)

特に熊川宿の場合は、重伝建保存地区であり、修理・修景などの景観保護や、熊川区ならではのまちづくり活動やイベントも多く、他の地域にも増して移住に不安を

先進地研修① 福岡県八女市

と き 平成28年2月10日(水)～11日(木)
参加者 10名

先進地研修の第一弾として、八女福岡島における空き町家の再生生活用の取組みについて研修しました。泊まれる町家「川のじ」で、NPO

の方々より八女福岡島のまちづくり活動について、NPOの連携と住民組織の支援、空き家を解体させない努力、空き家再生生活用の代行の仕組みやシステム化、移住者のサポートについてお聞きしました。NPOと行政の関わりや空き家所有者との交渉、再生資金の調達、移住者の発掘とサポート等について活発な意見交換が行われました。魅力的な「地方の物」が買え、伝える場を作っておられるアンテナショップでは、情報を全国発信され、通販体制も確立されています。旧八女郡役所は、屋根崩落の危険性回避のための改修工事をスタ

感じられる方もあることから、熊川区(若狭熊川宿まちづくり特別委員会)が若狭町と緊密に連携し、移住を希望される方をサポートさせていただく体制を整えています。

ートさせ、これまで軸部、屋根の葺き替え、建具の取替えを職人さんが行い、土壁塗りと建具格子部分の塗装を空き家再生ワークショップとしてボランティアも募って取り組んでくれました。



泊まれる町家「川のじ」前で北島氏と

参加者の感想より

・メンバーの関心深さに驚いた。
・NPOの組織と北島さんに負うところが非常に大きく、町家を残す熱意に心打たれました。
・町家を再生して店舗に活用しているお店は、色々な面で工夫されています。ゆっくり滞在型に魅力を感じました。
・我々もまちづくり委員会の組織を活かし、空き家所有者との信頼関係の構築が必要と感じました。反面、組織や体制面での限界も感じました。

先進地研修② 愛媛県内子町

と き…平成28年3月17日(木)～18日(金)
参加者…9名

八日市護国地区町並保存会の丸山会長、八日市護国地区町並保存センターの畑野所長からまちづくりの経緯や取組み、周辺環境の整備についてご説明いただきました。

熊川宿との違いは、伝建地区の周辺にも点在して立派な町家が再生され、有効に活用されていることからメリハリがあることと、石畳地区を主とした村並みの整備も進められ、町に活気があるところ

です。伝建範囲は3.5haとコンパクトながらも、重文上芳我邸住宅などの豪商が点在し、また周辺にも内子座など伝建地区内に匹敵する建物が残されています。

民泊「月乃家」は、伝建地区内にある真心のこもったおもてなしの宿としてご夫婦で運営されています。炭火の囲炉裏があり、勘兵衛家と似ています。(故)吉田桂二先生の設計により改修が行われており、直



民泊「月乃家」前でご夫婦と

筆の襖絵がありました。

二日目、蔵のホテルと町家宿泊施設の2棟をご案内いただきました。伝建地区外なので改修工事補助対象ではありませんが、町家の良さを活かして上手く運営されています。こういう建物が伝建地区を取り巻いて存在することも内子の強みだと感じました。

昭和62年から村並み保存運動を展開され、農山村の風景を皆で作

りあげ活性化が図られています。石畳清流園では手づくりで水車を復元し、平成4年からは石畳水車まつりが開催されています。熊川も河内川ダム周辺の環境整備と有効的な活用が望まれます。

石畳の宿は村並み保存運動により平成6年にオープンした地元農家の女性が担う民泊で、静かな環境と地元素材をふんだんに使った田舎料理が提供されます。平成18年の研修ではこちらで宿泊させていただきました。

今回の研修には大阪から熊川へ移住されて、カフェを運営されているプロのカメラマンも参加しました。研修の様子を移動の合間に編集され、YouTubeにアップされています。



空家対策推進研修(愛媛県内子町)①②

<https://www.youtube.com/watch?v=TbvWYdpK0U8>
<https://www.youtube.com/watch?v=SvYN05wOdlg>

先進地研修③ 兵庫県篠山市

と き…平成28年3月27日(日)
参加者…14名

平成27年度最後の事業として丹波篠山のNOTEさんへ寄せていただきました。

(二社)ノオトは、地域団体への支援をベースとしながら、農商工連携による新産業の創造、クリエイティブツーリズムの振興などの自主事業を展開し、法人としての自立性の向上と地域の雇用創出など地域活性化に取り組みしており、特に今回は空家家の再生と活用に関するノウハウを研修しました。

篠山市も伝建地区外に古民家が残っていて所有者が維持できなくなる建物があります。これらをNOTEが活用する方の希望に沿って再生し、多くの雇用を生んでいます。営利主導型で、主に転売・サブリース・地域運営の3パターンする方法で運用されています。同ったホテルも同様のケースで、フロントを本館において離れた場所の再生古民家3棟を客室として活用されています。

最も遠い場所は、このフロントから2キロ程離れていて車で送迎されるそうです。必要最小限の改修と、消防署な

どからの指導も考慮した安全対策も実施。住居としては満足できなく

ても、古民家ホテルとしての使用目的には十分マッチした修理です。

レストランや客室は靴のまま上がれるように改修されていました。

この日も全室が満室で室内は見学不可。昼食も満席状態でしたが時間をずらせて対応いただきました。

河原町妻入商家群の伝建地区視察では、NOTEが再生し、オーナーさんが平成25年に移住され営んでおられる影金ジュエリーのお店へ寄せていただきました。

篠山ではNOTEが広範囲に空家活用事業を展開しており、そのノウハウを広く国内へ伝承されています。

改めて古い物の活用と、価格設定に対してもノウハウを得る研修となりました。



河原町妻入商家群を視察



ホテルNIPPONIAの前で仲島氏と

話題 TOPIX

スイーツコンテスト

(2月13日・旧逸見勤兵衛家)

鯖街道熊川宿生き生きプロジェクトの一環で、熊川特産の葛を使ったスイーツコンテストが開かれ、各グループから創意工夫を凝らしたスイーツが応募され、試食・審査が行われました。



雪上の相撲大会

(2月14日・熊川陣屋跡地)

雪を活用したイベントを行おうと初めて企画されましたが、雪不足のため、あちこちから集めて開催。大人たちも童心に返り、大いに盛り上がりました。



道の駅リニューアル

(4月9日・道の駅若狭熊川宿)

日本遺産ゲートウェイ強化事業(日本遺産活用推進事業)で進められてきた改修工事が完成し、リニューアルオープン式典が開催されました。



改修概要は、鯖街道マンガミュージアム設置、四季彩館の混雑回避と拡張、にぎわい広場の整備です。

森下町長や小堀県議の挨拶の後、テープカットが行われ、お客さんにつきたてのお餅が振る舞われました。熊川産の原木椎茸、手作りコンニャクや葛まんじゅう等の販売が行われ、この広場は今後定期的に朝市などに活用されます。

また、新しくJRバス停「道の駅若狭熊川宿」が新設されました。下新町から道の駅までバス停は4箇所あり、熊川宿観光の片道を利用すると楽に回れます。交通系ICカードも使えます。

La Festa Primavera 2016

(4月18日・熊川宿内)

2012、2013、2015年に続いて4回目になります。天候に恵まれ、近藤真彦さんも真っ赤なアルファロメオで訪れ、多くのファンに囲まれていました。



石田智也氏作品展

(5月3日～6月26日・旧逸見家蔵ギャラリー)

クマ川さんのキャラクター作者で、熊川郵便局長の石田智也氏の作品展が開かれ、コンピューターグラフィックスやあじさいマラソンの歴代ポスター、熊川いっぶく時代村のポスターに登場したキャラクターなどが掲示されました。



全国伝建協議会 加賀市大会 報告

とき：平成26年5月25日(水)～27日(金)
ところ：石川県加賀市・加賀東谷山村集落・加賀橋立船主集落
参加者：11名

る日本三大秘境にも数えられる徳島県三好市東祖谷地区の活動

住民プログラムの最初は、来年度開催地の茨城県桜川市真壁の取組みについて報告がありました。

真壁は平成22年度に伝建地区に選定され、直後の平成23年に東日本大震災で大きな被害を受けました。しかしながら、伝建制度での修理事業も進み、現在では60%程度が修理できたとのこと。

続いて、加賀東谷地区と類似す

報告があり、東祖谷の44集落中19が限界集落、14が準限界集落で、高齢化率は60%、移住・定住が大きな課題との報告でした。

我が熊川宿も少子高齢化が進み空き家対策に取り組んでいることもあって、興味深くうかがいました。仕事を創出しないと生活ができないジレンマがあり大きな課題です。

情報交換会は、異なる地区の皆さんが入り交じって着席し、他地区との情報交換を行います。

来年度開催の桜川市さんは22名の方が大挙してお見えでした。中には案内ボランティアの方も参加されており、来年にかける意気込みが伝わりました。

また、この伝建協の大会や全国町並みゼミでも、平成26年度に開催された伝建協熊川宿大会が話題になりました。



加賀橋立を視察



加賀東谷を視察

分かれて現地視察しました。

加賀橋立は、北前船の船主や船頭が多く居住し、莫大な財を築いた集落です。北前船の里ガイドさんに歴史や建物の特徴について解説頂きながら散策しました。また、石川工業高等専門学校と金沢工業大学の学生さんが、散策拠点や公園の整備、住宅の活用などの活動内容を発表してくれました。

加賀東谷は、加賀藩の御用炭すべてを生産していた山村集落で、4集落が豊かな山林や河川、旧道と共に残されています。大きな切妻造りの屋根に煙出しを設け、赤瓦で葺いた農家が集まっています。文化庁講演では、北前船によるつながりや伝建地区間のつながりを、日本・世界各地を例として具体的に講演いただきました。「伝統的建造物としての価値を保ち伝えること、まちづくりに関わる方々の世代をつなぐ活動が大切」と述べられました。

平成28年度 若狭郡川宿まちづくり特別委員会 事業計画 (H28.7)

- 4月17日 まちづくり役員会
・ 重伝建選定20周年記念事業準備会
- 5月12日 まちづくり委員会・合同部会
- 5月22日 ツーデーマーチ協力
- 5月25～26日 第38回全国伝建協議会
総会・研修会出席(石川県加賀市)
- 6月24日 第1回 重伝建選定20周年記念
事業実行委員会
- 7月3日 七夕飾り
- 7月25日 若狭町伝建地区保存審議会
- 7月31日 白石神社や町並みの清掃
- 8月1日 町並み通信第33号発行
- 8月13～15日 街かど陶の灯り展H28
(熊川陶の灯り展実行委員会主催)
- 9月 まちづくり委員会・各部会
- 9月9～11日 全国町並みゼミ福島県大会
(下郷町大内宿・南会津町前沢集落)
- 9月24～25日 伝建協中部・北陸ブロック研修会
(愛知県豊田市足助)
- 10月2日 第17回 熊川いっぶく時代村
(熊川いっぶく時代村実行委員会主催)
- 10月下旬 文化庁調査官を囲む会(小浜市)
- 11月26～27日 重伝建選定20周年記念事業
全国町並みゼミ北信越ブロック大会
まちづくり委員会・各部会
- 平成29年
- 2月1日 町並み通信第34号発行
- 2月 熊川宿まちづくり総集会
- 3月 平成28年度最終まちづくり委員会
- <随時>
- ・ 重伝建選定20周年記念事業準備
 - ・ 全国町並みゼミ北信越ブロック大会準備
 - ・ 生き生きプロジェクトおよび
空き家を活かした移住推進事業の推進
 - ・ 町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清
掃と草刈り、看板の補修等
 - ・ ホームページ更新
 - ・ 委員会、役員会、部会を開催
 - ・ 若狭町並びに近隣のまちづくり研修・交流
会に参加
 - ・ 町並みゼミ・あすの大会などに参加



5/3

白石神社祭礼・山車巡行

(熊川区・熊川区祭礼実行委員会)

育宮では、熊川小学校の児童たちが囃子を奉納しました。

山車巡行は強風のため、1時間繰り上げて実施。山車の車高を下げ小学生だけを載せて、前輪はキヤスターに乗せて能取りを容易にする万全の対策をとりました。多くの区民に曳いていただき無事巡行できました。



4/10

伝統芸能保存会初練習

(熊川宿伝統芸能保存会)

今年初めての練習会が開かれ、つせんの事始めを練習しました。当面は毎月10日に練習を行うことが決まりました。

今年は、納涼盆踊りや11月の重伝建選定20周年記念事業に出演することが話し合われました。保存会では、老若男女を問わず唄や踊り好きの方を募集しています。



7/3

七夕飾り付け(まちづくり活性化部会)

まちづくり委員が前もって飾り物の準備と、区民に呼びかけ願い事や川柳を書いた短冊を募集しました。

当日はまちづくり委員や区民、子どもたちも参加して、みんなでワイワイ楽しく、多くの飾り物や短冊を立派な1本の笹竹に飾り付け、西口など区内3ヶ所に設置しました。



5/22

ツーデーマーチおもてなし

(熊川区・まちづくり委員会・熊川女性の会)

前日には9種類の具材を、〇〇〇食分刻み、長操鍋の準備をしていました。

雲一つない五月晴れのもと、熊街道コースを訪れたウォーカーたちは、曾我廼家福輔さんのトークやおもてなしの女性たちの歓迎を受け、長操鍋を味わい、休憩をして次の目的地へ歩みを進めていました。



熊川葛が「林業遺産」に認定

若狭地域の里山における熊川葛の生産技術(熊川葛振興会)が「林業遺産」に認定されました。江戸時代から続く伝統的な製法が継承されてきたことが評価されました。

林業遺産とは、日本森林学会が日本の林業発展の歴史を記憶・記録する事業として、2013年度から認定を始めたもので、熊川葛を含め全国で16件(県内で3件)が認定されています。



あとながき

本年1月から「熊街道熊川宿生き生きプロジェクト」が進められ、3月に国際シンポジウムが開かれました。熊川宿では未来へのメッセージ「熊川宣言」や、華やかで笑顔いっぱい「花嫁道中」、若狭と熊街道の「うまいもん食フェア」が行われました。

今、熊川地区では、地域活性化事業の予算が積極的に交付されるなど、熊川宿が目ざれ期待されています。色々な団体が季節感を演出した様々な活性化イベントを企画し実施しています。実行委員や関係者は大変ご苦労様ですが、みんなが参加し楽しむことでイベントを盛り上げ、熊川宿の活性化に繋がればいいと思います。

今年には熊川宿が重伝建地区に選定されて20周年になります。来る11月26日・27日に「全国町並みゼミ北信越ブロック大会」と「熊川宿重伝建選定20周年記念フォーラム」を開催します。熊川区では5月から実行委員会を立ち上げ、準備を進めています。9月には参加受付も始まります。多くの皆様のご参加をお待ちしています。(編集委員)